

平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月 公益社団法人日本グライダークラブの記録



クラブホームページ www.glider.jp

公益社団法人日本グライダークラブ定款より

(目的)

第 3 条 本クラブは、青少年を始め、大空に憧れを抱く者に対し、体験搭乗及び操縦・整備技術などの指導・教育を通し、航空知識の普及とこれらの伝承を行うと共に国際交流を行い、グライダースポーツ文化の向上・振興を図り、もってわが国グライダー界の発展に資することを目的とする。

(事業)

第 4 条 本クラブは、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) グライダーの啓蒙・啓発・普及に関する事業
- (2) グライダー及び曳航機の操縦技術の向上及びその指導者の養成
- (3) グライダーの操縦技術、整備技術等、及び安全運行・事故防止対策に関する研究並びにその施策
- (4) グライダー及び関係する装備・計器などの設計・制作・整備・修理・改造
- (5) この事業に必要な機材、施設、設備などの整備、及び人材の養成
- (6) その他本クラブの目的を達成するために必要な事業

Club Operation in 2014 Apr. ~2015 Mar.



平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月 公益社団法人日本グライダークラブ事業報告書

平成 27 年 4 月 1 日
公益社団法人日本グライダークラブ
理事長 吉田 正



公益社団法人日本グライダークラブは、国土交通省所管のもと、航空の安全の促進と発展を目的として設立された社団法人です。当クラブでは定款に掲げる理念に基づき、平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月期は下記の通り、公益事業をはじめとした様々な活動を実施しました。平成 27 年度も引き続き公益事業を積極的に推進する所存ですので、クラブの活動と運営に皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。


A. 公益目的事業 1(グライダーの操縦・整備技術の研究・伝承と指導者の養成)

I. グライダー普及のための体験搭乗会

	<p>「グライダー体験搭乗会」</p> <p>期 間 :平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月の各 週末・祭日 主 催 :(公益社団法人)日本グライダークラブ 参加人数 : 126 名 概 要 :日本グライダークラブのホームページなどを見て来場した体験搭乗希望者に対して、1 日につき 1～5 名の体験搭乗を行い、グライダーおよびクラブの活動への理解を深めた。</p>
	<p>「グライダー教室の開催」</p> <p>期 間 :平成 26 年 10 月 4 日、11 日、25 日 主 催 :(公益社団法人)日本グライダークラブ 参加人数 : 板倉町在住および在勤者など 3 名 概 要 : 地域との交流、協調を目的として町の広報を通じ、体験搭乗希望者を募集し、1 日につき数名の体験搭乗を行って、グライダーおよび当クラブの活動への理解を深めた。</p>

II. グライダー・モーターグライダー操縦士の育成

	<p>「グライダー操縦士の育成」</p> <p>期 間 :平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月の各週末、祭日 参加人数 : 練習生 6 名 概 要 :グライダー技能証明取得のための学科および飛行について操縦教育を行った。</p>
	<p>「クロスカントリーパイロットの養成」</p> <p>期 間 :平成 26 年 4 月～平成 27 年の週末および祭日 参加人数 : 10 名 概 要 :高性能複座機を使用し、経験豊かな教官の指導のもと、ウェーブ(山岳波)、コンバージェンス(大気の集束帯)等を利用して長距離、高高度飛行の訓練を行った。</p>


	<p>「エアロバティックフライトパイロットの養成」</p> <p>期 間:平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月の各週末、祭日 参加人数:10 名 概 要:グライダー曲技の訓練を、曲技専用グライダー「フォックス」を使用して行った。</p>
---	---



Ⅲ. グライダーの普及ならびに飛行技術の向上を図るための講習会

	<p>「指定養成コース」 第 3 期 (平成 26 年度)</p> <p>期 間:平成 26 年 11 月 1 日～2 月 9 日 (9 日間) 参加人数:指定養成施設入所者 1 名 概 要:指定養成施設が開催され、1 名が自家用滑空機上級技能証明の審査に合格した</p>
	<p>「ソアリング講習会」</p> <p>期 間:平成 26 年 5 月 10 日 参加人数:14 名 概 要:ソアナロマインの滝沢氏を招いて、ソアリング時の留意事項等の講習を受けた。</p>
	<p>「モーターグライダークロスカントリー講習会」</p> <p>期 間:平成 26 年 10 月 24 日 参加人数:1 名 概 要:スーパーディモナを使用して板倉滑空場～仙台空港を往復し、航法、ATC の実地訓練を行った。</p>
	<p>「異常姿勢回復およびベーシックエアロバティック講習会」</p> <p>期 間:平成 26 年 11 月 2 日・22 日・23 日、2 月 28 日 参加人数:13 名 (座学および実地訓練) 概 要:緊急操作トレーニングの一環として G103 を使用し異常姿勢回復訓練を、また FOX を使用してベーシック曲技課目の学科および実地訓練を行った。</p>
	<p>整備講習会「二等航空運航整備士(上級滑空機) 講習会」</p> <p>期 間:平成 26 年 8 月の 6 日間、10 月の 6 日間、12 月の 3 日間 参加人数:6 名 概 要:4 月 7 日、2 名実地試験に合格 11 月 4 日、2 名実地試験に合格</p>



	<p>整備講習会「二等航空整備士(上級滑空機)講習会」</p> <p>期 間 : 平成 26 年 5 月の 6 日間、12 月の 3 日間 参加人数 : 4 名 概 要 : 過去に当クラブの講習会に参加し、二等航空運航整備士に合格した人に、二等航空整備士への限定変更のための講習を実施した。 6 月 2 日、2 名実地試験に合格</p>
	<p>整備講習会「二等航空整備士(動力滑空機)講習会」</p> <p>期 間 : 平成 26 年 4 月の 5 日間、平成 27 年 2 月の 6 日間 参加人数 : 4 名 概 要 : 過去に当クラブの講習会に参加し、二等航空運航整備士、二等航空整備士に合格した人に、動力滑空機への限定変更のための講習を実施した。 4 月 28 日および 2 月 23 日、4 名実地試験に合格</p>
	<p>整備講習会「二等航空整備士(飛行機)講習会」</p> <p>期 間 : 平成 26 年 8 月の 4 日間、10 月の 6 日間 参加人数 : 2 名 概 要 : 過去に当クラブの講習会に参加し、二等航空整備士に合格した人に、飛行機への限定変更のための講習を実施した。 10 月 23 日、2 名実地試験に合格</p>
	<p>「AFRコース」(Annual Flight Revue 年次フライトレビュー)</p> <p>期 間 : 平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月の各 週末、祭日 参加人数 : 板倉滑空場で機長として飛行する操縦者全員 概 要 : 板倉滑空場にて、機長として飛行するパイロットに対して、クラブ規定により 1 年に一度義務付けられている AFR を、滑空機動力滑空機、曳航機毎に実施した。</p>
	<p>「特定操縦技能審査講習会」</p> <p>期 間 : 平成 26 年 6 月 22 日 参加者 : 1 名 概 要 : 法制化された特定操縦技能審査(機長として飛行する操縦者は 2 年に一度の受験が義務づけられる)の、受験準備講習会を開催した。 特定操縦技能審査員の養成方針に基づき、航空局の審査員認定試験を受け「飛行機」の審査員 1 名が認定された。</p>

IV. 競技会の開催

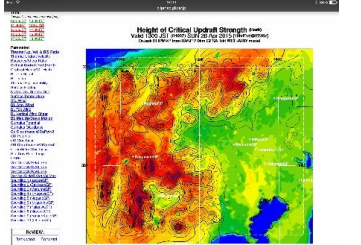
	<p>[第 4 回 OLC 藤倉記念チャリティーカップ]滑空競技会</p> <p>期 間 : 平成 25 年 10 月 15 日～平成 26 年 9 月 22 日 主 催 : (公益社団法人)日本グライダークラブ 参加人数 : 58 名 概 要 : 競技飛行の普及と滑翔技術の向上を目的として、全国のグライダーパイロットに呼びかけ、第 4 回 OLC (オンラインコンテスト) 藤倉記念チャリティーカップを開催した。</p>
---	---

	<p>平成 26 年度「OLC 板倉マンスリーコンペ」滑空競技会</p> <p>期 間 : 平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月 参加人数 : 26 名 概 要 : グライダーの安全飛行のための基礎的な滑空気象の解析能力、および野外滑翔技術の向上を図る目的で、板倉滑空場をベースとして活動するグライダー愛好者を対象として、OLC を利用した月間競技会を開催した。</p>
	<p>平成 26 年度「ゴールデンウイークコンペ」</p> <p>期 間 : 5 月 3・4・5 日 参加人数 : 12 名 概 要 : 5 月の連休を利用してクラブ内で競技会を開催した。</p>

V. グライダーの操縦技術、安全運航、事故防止対策に関する研究会、講演会、映画会などの開催


	<p>「航空安全講習会」</p> <p>期 間 : 平成 26 年 12 月 6 日(大阪) 平成 26 年 12 月 20 日(釜崎) 平成 27 年 1 月 10 日(名古屋) 概 要 : 航空 5 団体で企画する航空安全講習会に、会員 2 名が講師として参加し、また多くの会員が受講した。</p>
	<p>「飛行インストラクター・曳航パイロットの任用・リフレッシュ」</p> <p>期 間 : 平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月 概 要 : 任用訓練の結果、インストラクター 1 名、曳航パイロット 1 名が新たに任命された。</p>

VI. グライダーに関する出版物による航空思想の普及

	<ol style="list-style-type: none"> 1) クラブホームページの整備 2) 広報誌(クラブニュース)の制作 3) グライダー気象情報の活用: 日本グライダークラブにより紹介されたブリップマップ(BLIP MAP)が滑空界で広く活用されている。
---	--

B. 公益目的事業 2(航空情報提供事業)

1. 板倉フライトサービスの運用


	<p>「飛行援助用航空局」板倉 FLIGHT SERVICE (130.675Mhz)</p> <p>期 間 : 平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月の運航日 概 要 : 板倉滑空場付近の航空の安全を図るため、運行日毎にフライトサービス担当者を指名し、付近を飛来する航空機からの飛行情報の要求に的確に対応できる態勢を整えている。 AIC041/14 板倉 FS: 滑空場周辺半径 5NM, 5000ft 以下</p>
---	--

C.クラブ組織の整備


1. 定款及び内部規定に従った公益事業執行体制により、業務遂行の充実を図ると共に、新たな業務システム、会員データベースの構築など、作業の効率化を目指した。

D.その他クラブの目的に必要な事業


1.再生可能エネルギー発電の活用

	<p>「太陽光発電システムの設置」</p> <p>再生可能エネルギーの活用を目的として、太陽光発電システムを格納庫屋根に設置することで、省エネおよび光熱費の軽減に寄与している。</p>
---	--


2.騒音対策

	<p>「飛行規制区域の設定および飛行経路の変更」</p> <p>概要 : 騒音対策のため滑空場周辺に4ヶ所の飛行規制空域を設定し、その上空を避けて飛行することを取り決め、また時間帯によっては曳航経路を変更すること、及び騒音の低い動力滑空機を曳航に活用するなどの対策を講じている。 騒音クレームがあった場合、板倉町役場とも連携して真摯に対応している。</p>
---	--


3.地域との交流

	<p>「渡良瀬遊水地フェスティバル」に参加</p> <p>期 間 : 平成 27 年 9 月 7 日</p> <p>概 要 : 遊水地周辺の各種スポーツ団体が集う、栃木市主催のフェスティバルに参加し、機体展示(地上、飛行)やペーパーグライダーの作製教室を開催した。</p>
---	--


4.板倉事務所の充実

	<p>「板倉滑空場 事務所の充実」</p> <p>概 要 : インターネットを利用して気象情報の取得、解析する態勢の充実 クラブ員データベース、会計システムの整備活用、資料室の整備、毎飛行日ごとの安全ミーティング開催スペースの充実を図った。</p>
---	--


5.板倉滑空場の整備

	<p>「滑走路路面の平坦化、効率的利用方法の検討および滑空記章試験に必要な整備など」</p> <p>期 間 : 平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月</p> <p>概 要 : 渡良瀬河川事務所による堤防工事は終了したが、滑走路南側部分の路面平坦化が完成していないので、クラブ員有志により平坦化作業を行った。今後、安全に滑走路全長が使用できるように、さらに路面の整備を行っていく。</p>
---	--


6. ウェーブフライトプロジェクト

	「山岳波(ウェーブ)などを利用した、滑空機の長距離、高高度飛行の研究」
	<p>期 間 : 平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月</p> <p>概 要 : 高性能滑空機により、日本アルプス方面から東北地方、さらには北海道に至る飛行探査、研究を会員の丸山氏、市川氏、田上氏を中心として行った。</p>


7. 若年層支援プログラムの拡大

	「ラインボーイ制度」
	<p>期 間 : 平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月 週末・祭日</p> <p>参加人数 : 18 名</p> <p>概 要 : 若年層支援プログラムの一環として、各大学航空部員および若手 OB を対象にラインボーイ制度を策定し、若年層が運航に参加することによりクラブに親しみ、卒業後に入会しやすくする方策を実施している。</p>

8. 他団体合宿・練習受入

	<p>板倉滑空場で合宿・練習・体験搭乗会を行った諸団体 早稲田大学航空部 慶應大学航空部 東京工業大学 OB 会 三田ソアリングクラブ FOX アクロチーム</p>
	<p>期 間 : 平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月の 週末・祭日</p> <p>概 要 : 上記団体の飛行活動について、運航支援を行い、航空スポーツの発展と普及に努めた。</p>

9. 他団体・連絡会等の交流事業

	<p>日本および世界各地のグライダー関係団体などとの活発な交流</p> <p>概 要 : 日本および世界各地(オーストラリアなど)の団体・会員と交流を深め、運航業務支援、知識・技術の共有、人材交流、79 条申請の相互協定、講習会・イベントの相互案内を促進する態勢を確立した。</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 1) 関東西部地区飛行連絡会(航空自衛隊・入間基地)への参加、平成 26 年 9 月 24 日 飛行空域等の情報交換。 2) 北関東航空連絡会(陸上自衛隊・北宇都宮駐屯地)への参加、平成 26 年 12 月 1 日 飛行空域等の情報交換。 3) 下総航空基地周辺飛行安全会同(海上自衛隊・下総基地)への参加、平成 26 年 12 月 2 日 飛行空域等の情報交換。 4) 渡良瀬アクリメーション会議への参加 板倉滑空場の現況の発表。 5) 渡良瀬スカイスポーツ協議会の連絡会議への参加(毎月 1 回開催) 他のスポーツ団体との情報交換。

E. 会員活動

1. 発航回数(平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月)





総曳航回数 1473 回(曳航機内訳 ハスキー 1356 回、デモナ 117 回)、 デモナ発航回数 92 回
 自力発航動力滑空機(SL)発航回数 59 回 *日本でも有数規模のクラブ運営を実施。

2. 総会員数147名 内訳 : 正会員102名、賛助会員46名。(平成27年3月31日現在)

3. 操縦技能証明取得 : 自家用操縦士(滑空機上級)実地試験合格 1名(平成26年12月9日)

4. 整備士資格取得 : 二等航空運航整備士実地試験合格 4名
 二等航空整備士実地試験合格(滑空機上級) 2名
 二等航空整備士実地試験合格(滑空機動力) 4名
 二等航空整備士実地試験合格(飛行機) 2名

5. その他の活動

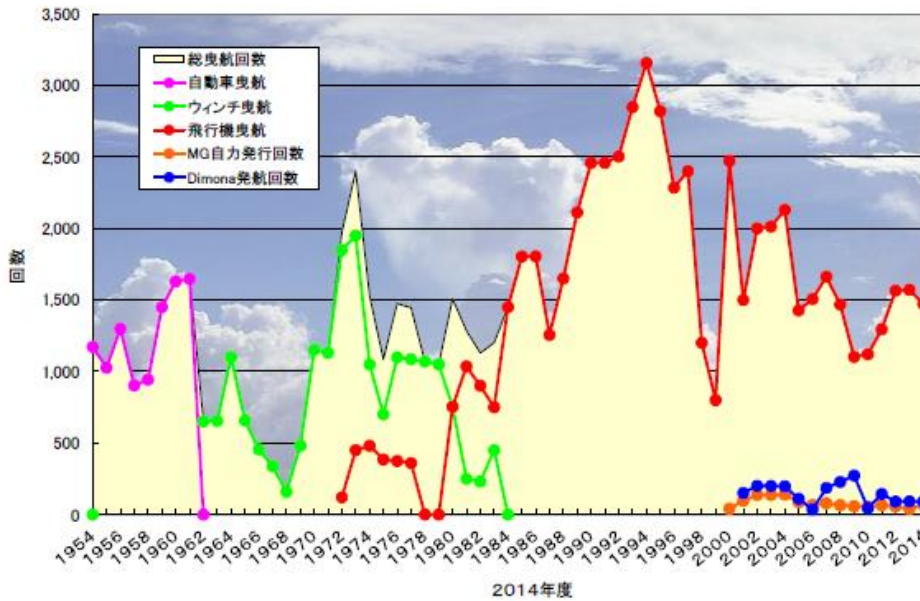
	<p>「世界滑空世界選手権」に会員が日本代表として参加</p> <p>期 間 :平成 26 年 7 月 26 日～8 月 10 日</p> <p>概 要 :第 33 回 FAI 世界滑空機選手権(ポーランド、レシュノ)に丸山氏が 18m クラスで出場、31 位(46 人中)の成績を収めた。(クルーとして佐々木・高見・福崎会員が参加)。15m クラスに出場した元会員の市川氏は 6 位(46 人中)の成績を収めた。</p>
	<p>「滑空機曲技世界選手権」に 2 人の会員が日本代表として参加</p> <p>期 間 :平成 26 年 7 月 23 日～8 月 2 日</p> <p>概 要 :FAI 滑空機曲技選手権(ポーランド、トルン)に酒井氏がアドバンストクラスに出場、24 位(36 人中)の成績を収めた。また梶氏はアンリミテッドクラスに出場、20 位(30 人中)の成績を収め、「スポーツマンシップ賞」を受賞した。</p>
	<p>「テレビ取材」</p> <p>期 間 :平成 26 年 8 月 16 日</p> <p>概 要 :日本テレビ「笑ってコラえて！」の収録が行われ、会員の櫻井さんが出演し 9 月 10 日に放映された。</p>
	<p>「埼玉スカイスポーツフェスタに参加」</p> <p>期 間 :平成 26 年 10 月 12 日</p> <p>概 要 :埼玉県妻沼滑空場で開催された表記フェスタに、関宿滑空場から参加したモーターグライダー 2 機とともに、スーパーデモナで会員 2 名が参加し、会场上空を編隊飛行した。</p>

平成 26 年度事業報告には「一般社団法人および一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

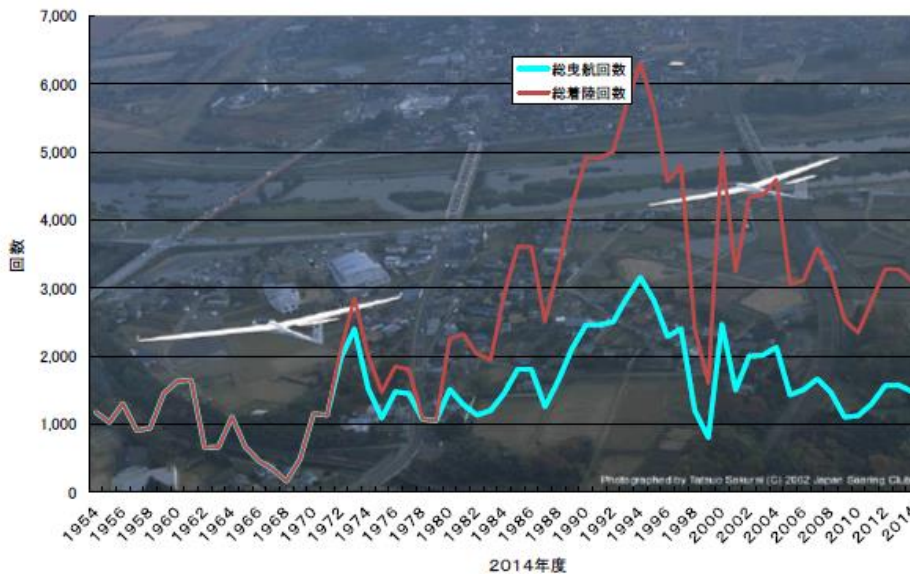
平成 27 年 4 月 1 日

公益社団法人 日本グライダークラブ

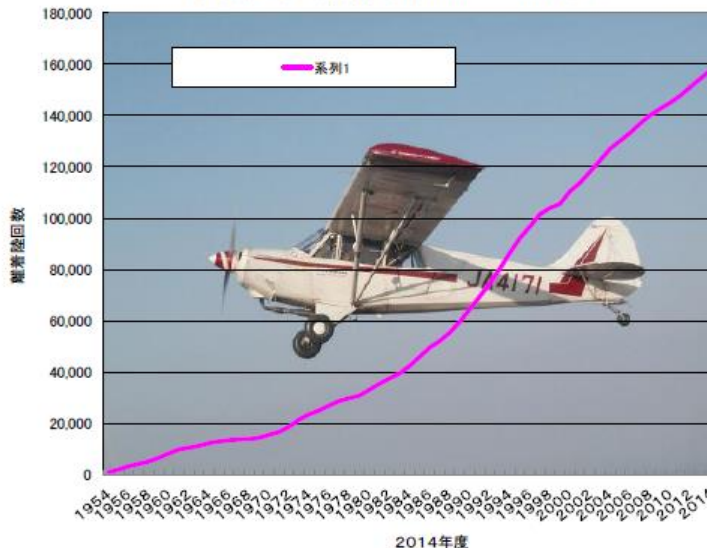
(公益社団法人)日本グライダークラブ 統計資料



(公社)日本グライダークラブ 総曳航回数・総離着陸回数対比(1954-2014年)



板倉滑空場 累積着陸回数(1954-2014年)



Japan Soaring Club

公益社団法人日本グライダークラブ
URL : www.glider.jp

◆板倉滑空場
住所：〒374-0101
群馬県邑楽郡板倉町除川 1286
TEL/FAX : 0276-77-0830

◆東京事務所
住所：〒105-0004
東京都港区新橋 1-18-1
(航空会館 9F)
TEL/FAX : 03-3591-7728
E-mail: shinbashi-office@glider.jp